

AALA ニュース 第162号 内容紹介

01 新藤通弘「ベネズエラ大統領選挙をどうみるか」

選管はマドゥーロ大統領の3選を発表したが、野党の一部はこれを認めず、自らが勝利を主張。アメリカやラ米の親米政権が「不正選挙」の圧力を強める。一般マスコミはなぜアメリカや野党の主張を一方向的に伝えるのか。

02 新藤通弘「ベネズエラ大統領選挙をどうみるか」

03 ラ・ホルナーダ「ベネズエラで進撃するクーデター」

メキシコの有力紙の社説。「ワシントンから指示された寡頭政治体制の復活を目指すクーデターの脅威に再び包囲されている」と事態の核心を剔抉している。

04 B・ノートン「野党勝利の出口調査の源は米政府関連企業」

一部野党と米メディアが「不正選挙」の根拠としている出口調査は、米政府関連のエジソン・リサーチ社が行ったもので、エジソン・同社はCIA関連の米国家宣伝機関と連携しており、ウクライナやグルジア、イラクで活動。

04 A・ベラスコ「電子集計と投票結果の突合せは必要」

米独立系メディア「デモクラシー・ナウ」に登場した2人の専門家の分析。一部野党によるクーデターの企てだが、ハッカー攻撃の合った電子投票集計と投票用紙による突合せが必要になっていると強調。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます（[aala_news の編集日記 \(livedoor.jp\)](https://aala-news.com/livedoor.jp)）

